

産科婦人科

科長 吉川 史隆 (教授)

4W・4E

全国有数の症例数が安心をもたらす卵巣癌治療

婦人科腫瘍、周産期、生殖医療の主要領域に加え、産婦人科全域をカバーする診療を行っています。

診療体制

教授以下教員15名、診療医員13名にて、一般外来および専門外来、4W病棟（婦人科）・4E病棟（周産期）・総合周産期母子医療センター（MFICU、生殖医療）での入院診療を行っています。当直は2人体制で分娩および緊急手術に対応しています。

対象疾患

悪性腫瘍（子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌など）、絨毛性疾患（胎状奇胎、絨毛癌など）、ハイリスク妊娠（妊娠高血圧症候群、合併症妊娠、前置胎盤、胎児異常など）、不妊症、内視鏡下手術適応婦人科疾患（子宮内膜症、子宮筋腫）、更年期障害。

得意分野

卵巣癌治療においては、全国有数の症例数を有しています。また、若年者の初期悪性腫瘍では妊孕性温存治療にも力を入れています。その他、絨毛性疾患、胎児異常、前置癒着胎盤、内視鏡下手術、体外受精・顕微授精の症例も豊富です。

診療実績

子宮頸癌41例、子宮体癌43例、卵巣癌50例、絨毛性疾患13例、分娩492例（うち帝王切開193例）、母体搬送31例、胎児先天異常53例、内視鏡下手術96例、体外受精100採卵周期（2010年）。

専門外来

中部地区の基幹病院として、腫瘍、ハイリスク妊婦、生殖医療、内視鏡下手術、更年期の各専門外来を設置し、最先端の診療を行っています。また、セカンドオピニオンにも対応しています。



先進医療・研究

初期浸潤子宮頸癌に対し、妊孕性温存術式である広汎性子宮頸部切除術を施行しています。ALA-PDT（光線力学）療法、および新規がん胎児性抗原を標的とした免疫療法の開発を行い、臨床応用を目指しています。子宮全摘出術にロボット支援腹腔鏡下手術を導入しています。



眼科

科長 寺崎 浩子 (教授)

9W

優れた治療成績が物語る最先端治療の取り組み

当科では特に網膜硝子体疾患を専門としており、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜剥離などに対して最先端で良質な治療を積極的に行っています。年間700件を超える網膜硝子体手術件数とともに高い治療成績を誇っています。

診療体制

教授（寺崎浩子）、准教授1名、講師2名、病院講師1名、助教3名、特任助教1名、病院助教4名、非常勤医員9名。

対象疾患

網膜硝子体疾患、黄斑変性、網膜変性、白内障、ぶどう膜炎、ドライアイ、角膜疾患、斜視・弱視、小児眼科、眼腫瘍、眼形成。



得意分野

糖尿病網膜症、網膜剥離、黄斑円孔、黄斑前膜などの網膜硝子体手術。加齢黄斑変性、黄斑浮腫に対する光線力学療法や抗VEGF薬をはじめとする分子標的薬など新しい薬物治療など。

診療実績

初診患者数は年間約3,500人、再診患者数は年間延べ約36,000人。総手術数は年間約1,000件、うち700件は網膜硝子体疾患です。加齢黄斑変性の光線力学療法と薬物注入による治療実績は年間約480件で優れた治療成績を挙げています。

専門外来

網膜硝子体疾患、角膜疾患、斜視弱視・小児眼科疾患、ぶどう膜炎、眼腫瘍、眼形成、ロービジョン。

先進医療・研究

加齢黄斑変性や糖尿病網膜症、網膜色素変性などの疾患の病態解明と新規治療法の開発を推進しています。特に網膜疾患を網膜電図の手法を用いて診断・評価する分野では国際的に高い評価を得ています。

